

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193100476		
法人名	株式会社 オレンジサポート		
事業所名	グループホーム ひばり		
所在地	上川郡東神楽町北1条東2丁目1番5号		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193100476&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、食事と行事に力を入れており、利用者様は、自由な生活の中で楽しく生活していただいています。また、夏は、ほぼ毎日外へ出て、畑作業や、散歩、お茶などして気ままに過ごしています。町内のイベントにもできるだけ参加し、地域との交流を沢山できるよう努力しています。また、家族とも気軽にコミュニケーションを図れるようにしています。利用者様・ご家族様にも安心して信用のできるホーム作りに日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年開設されたグループホームです。東神楽町は「花のまち」として、美しい風景の広がる町です。ホームの名称は町の鳥である「ひばり」に由来しています。広い敷地には花壇・畑・ハウスがあり、夏場の格好の散歩道となっています。建物はビタミンカラーでもある「オレンジ」と「グリーン」で統一され、代表者が全国を見学したり、カラーセラピーを研究され、熱い思いが随所に感じられます。利用者だけでなく職員も元気をもらえる空間作りとなっています。職員は男女比や年齢構成にも配慮され、利用者に父・母・祖父・祖母という家庭の延長を感じて頂いています。利用者と職員の四季折々の笑顔がふんだんに収められているDVDを、一周年に向けての家族会で披露し、配布される予定です。家族に安心を与えられる心と作品となっています。管理者を中心として、全員で何事にも真摯に取り組んでいる様子を感じることができ、今後の活躍にますます期待が持てるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさと

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームでは、ゆっくり傾聴・やさしく受容・ともに共感を独自の理念として職員が常に見れる場所に掲示し、共有しながら日々実践している。	代表者・管理者は、地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識して、三つの理念を作り上げ、名札の裏に明記して、常に意識付けできるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会があれば、近くの公園へ出かけたり、他施設の行事の際、遊びに行ったりと交流している。また、広報誌（ひばり通信）を作成し、家族へ配布、関係機関に掲示していただいている。	散歩時は、地域の方々と気軽に挨拶を交わしたり、「花のまち」らしく球根をもって来て頂くなど、近隣の方々とふれあう機会が多いです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、機会がなく実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までは行っていないが、H22度内に家族会を開催する予定である。H23度は規定通り実施する。	開設して間もないこともあって、まだ行っていません。今月家族に参加して頂き、実施する予定です。	地域の方々への認知症についての理解や利用者の地域生活支援に協力や意見を貰うことで、サービス向上に活かすことができます。開設間もないということは、ホームを知って頂く良い機会でもあり、早急な取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に大雪地区広域連合に訪問し、意見交換・情報収集を行っている。日々わからないことは常に連絡し、確認している。	3町合同の介護保険課に定期的に訪問や相談をしています。利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝えることで、町内だけではなく広域的な協働関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解しており、夜間以外は玄関の施錠はしていない。徘徊のある入所者に関しては、職員が見守りを行い、常にケアしている。	権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、スタッフルームには、その際に作成したマニュアルを掲示し、共通認識を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待については話し合いの機会は持たれていないが、職員同士が注意しながらケアしている。今後、虐待に関しての勉強会をしたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の施設見学を重視し、十分な理解と納得をしていただいた上で利用していただいている。解約時は、本人・家族と話し合いをし、相互理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、家族が面会に来られた際、時間を作り意見や要望について伺う場を設けている。	家族訪問時には、積極的に声をかけ、意見や要望を聴くようにしています。出された意見は、真摯に受け止め、日々のケアに反映するようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、朝礼・申し送りノートを活用し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、定期的な会議も実施している。	定期的な会議の他、利用者との日常的な関わりの中で生まれるアイデアや意見を取り入れ、一緒に話し合い運営に反映するよう調整しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表はじめ施設長・管理者・主任と常に交代で出勤し、職員の要望にしっかり耳を傾けやりがいのある職場環境作りに努めている。その他個々に事情がある職員には職員全員で協議し、お互いに配慮しあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会など機会があれば随時代表はじめ4～5名で参加しています。日々の中では、常にチームで相談しあい、お互いに向上心を持ち、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、他施設との交流機会があれば参加している。しかし、他施設との勉強会などは今のところ機会がなく行っていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談時に、本人の希望を傾聴し安心の提供と信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時に、家族の希望を傾聴し安心の提供と信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談のアセスメントを通じて、必要な支援を見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは本人にやっていただいて自信を持ってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診時の支援をできるだけ家族に協力して頂く事で、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から使用されていた馴染みの理美容院へ行ったり、医療機関を変更せず、継続している。知り合いや友人の面会に対し歓迎いつでも来れる環境作りに取り組んでいる。	馴染みの理・美容院の送迎や行きつけの店での買い物支援、また趣味の民謡教室からの訪問など、生活習慣を尊重し、継続的な交流ができるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員は、閉じこもりがちな利用者には声掛けし、利用者同士の接触の場を多く設けるように努めている。また、利用者同士の会話に入り、楽しく会話ができるよう橋渡しを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退居になられた利用者の方に関しては、病院へ出向いてのフォローや情報提供に努めている。また、施設を探されている時は、積極的に施設探しに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在入居されてからまだ1年経たない方ばかりのため、常に情報収集・本人の希望を聞き改善や本人が納得いくよう説明し努めている。	日々の関わりの中で、言葉や表情で真意を汲み取るようにし、個別ADL表とフェイスシートを活用する事で、思いの変化に気づけるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他施設・医療機関を利用されていた方に関しては情報提供書を頂き、ない方に関しては、家族から情報収集して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初期アセスメントで今までの生活を本人、家族や以前いた施設から聞き取りをしている。また、日常のケアの中で随時状態を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話から希望を伺い、また朝礼や引き継ぎノートを生かし、随時意見交換をし、モニタリングを行い、その結果を定期的に介護計画に反映するようにしている。	利用者・家族の希望を取り入れ、状態の変化に応じた見直しを行っています。現在、介護計画の課題に連動した日常記録の検討に苦慮しています。	日常のケアの実践記録が、モニタリングや評価の場面での重要な要素です。記録については、管理者も検討課題としてとらえており、介護計画に連動した記載ができるよう取り組みに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を毎日個別の記録に残している。ケアをする際には記録の内容を把握して上で実践している。また、介護計画の見直しの際にも記録を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との対話の中で発生したニーズに対して、既存のサービスに捉われずに送迎などできることは施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域資源を把握し、連携を図るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診と入所前から利用されていた医療機関を利用し、随時家族に報告し納得していただいている。また、協力医ではなかった医療機関に関しては、協力医になっていただいている。	利用者・家族が希望するかかりつけ医に受診となっています。家族と相談し、症状・状態に合わせ往診診療・通院介助など、適切な医療が受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては、常に看護師に相談し指示していただいている。また、直接Drに連絡し指示をいただいている。緊急時には、看護師に連絡し、受け入れ先のHPを見つけていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった際は、情報提供書を医療機関に渡し、医療機関が安心できるように努めている。また、頻繁に訪問し、状況を聞き対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、機会がなく実施していないが、今後協議し考えていく。	入居時、利用者・家族の思いは確認するようにしていますが、開設後で経験が浅いこともあって、書類としての体制は、まだ整えられていません。	利用者と家族の大きな関心事や不安は、重度化した場合の対応です。利用者・家族の意向が、ずれたまま重度化の時期を迎えることのないよう、ホームが対応できる最大のケアについて、意思確認書や対応指針を作成することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当ホームでは、職員全員救命の講習を受け、事故発生時には万全の状態を整えている。今後は、定期的に訓練を実施する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、避難訓練等は行って、職員に周知させているが、地域とまでは協議していないため、今後協力体制を築いていきたいと思っている。	夜間を想定した避難訓練を行っており、連絡網も転送システムを採用し、周知徹底されています。しかし地域への協力体制までには至っていません。	災害は、火災・地震・大雪など、地域に応じて具体的な想定が必要です。職員だけの誘導の限界を踏まえ、例えば近所の有料老人ホームと相互扶助として協力体制を図り、一緒に訓練を行うなど、実践的な取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重してケアするように心がけているが、十分とはいえない。	呼称などの検討課題もありますが、権利擁護の勉強会でのマニュアルを再確認し、寄り添い介護を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に選択しを用意し、利用者が決定するようにしている。また、思いや希望に関しては日々の中で聞いたり表情で判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者の希望を伺い、その方のペースに合わせてケアしているが、集団生活のため、十分とはなっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望に常に耳を傾け、化粧品等本人が使用していたものを探し、購入して使用していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に力を入れ、常に利用者の好きな食べ物を聞き提供している。毎日、職員は利用者と一緒に食事している。	嗜好や食形態にもさりげなく対応し、ハウスで収穫された野菜と一緒に下拵えするなど、食事に力を入れることで、大切な活動の一つとしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算はしていないが、水分・食事摂取量をチェックし、脱水・低栄養に注意をはらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアを行っている。その際、ブラッシングの手直し・歯の状態観察をし必要に応じて協力歯科に往診で診ていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツ使用の方でも声掛けし、トイレ誘導にてトイレでの排せつ習慣作りに努めている。	介護計画にも課題として取り入れ、利用者の様子を敏感に察知し、誘導や声かけでトイレでの排泄を心がけ、失敗が少なくなるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方に関しては、乳製品等工夫してスムーズな排せつスタイルができるよう努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、入浴日は決めて行っているが、その時の体調・本人の希望に合わせて行っている。週2回としているが、入浴日以外にも足浴・シャワードバスも実施している。	ユニットにこだわらず、週二回は入浴できるようにしています。失禁時や急な対応でも、浴槽に入ったと同じく温まることのできるシャワードバスを利用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく睡眠導入剤を使用せず、寝れない時には、温かい飲み物など提供している。又日中に関しては短時間の睡眠を必要に応じていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬の把握や、管理を行い、わからないことは常にDrに聞き指示いただいている。また、服薬後変化が現れた場合はすぐDrに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏はほぼ毎日散歩・外でのお茶等気分転換に努めている。その他、畑の管理、花壇・芝生の水やり等役割を持って喜びのある日々にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、洋服を買いに出かけたり、海を見に行ったりと遠くまで足を運び利用者の希望にできるだけ答えられるよう努力している。また、農作業をされていた方が多いため、ハウス作成・畑・花壇の作成にも力をいれている。	日々の散歩や畑の手入れを通して、戸外の空気に触れる機会を多くしています。天気の良い日は、広い庭園を利用して、バーベキューやおやつの時間にと、外で食べる機会を積極的に取り入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、ホームで管理しているが、外出時に料金が発生する場合は、自立でできる利用者の方に支払い等していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当ホームでは、電話・郵便物の件に関しては利用者の希望に沿って行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては、色々な装飾を行い明るく開放的で落ち着いた空間作りに努めている。また、色彩を取り入れメンタル面にも配慮をしている。利用者が迷ったり・不安にならないようその方の好みの色の居室を選んでいただき提供している。	ユニット毎に「オレンジ」「グリーン」とカラーセラピーを使い、心落ち着ける色使いを取り入れています。広い吹き抜けを利用して空調設備に工夫するなど、よどみのない空間作りを心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで全員がゆっくりと過ごせる広い空間で、冬はこたつでまったりと過ごせる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた家具類・電気製品を使用していただき安心して生活できるようにしているが、ほぼ居室に関しては家族と本人に任せているため自由にいただいている。	居室の壁紙やカーテンも利用者の好みに合わせています。お坊さんのお参りのある方もいるなど、利用者の家として、居心地良く過ごして頂けるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別にADLを把握し、利用者ができることはしていただくように支援している。その際には危険性がないように見守りをするようにしている。		